

## 世界文化遺産ローン ラインハート・クレーベ(ドイツ)

12地域が指定される(1991年)

使いながら、生活史しながら守って行く。

18万haの広さ

27種類の生態系がある

50ha / 1農家の規模

林業、農業、観光、産業

防風林と牧草地の混在(小動物が来る)

農風景の保存(小さな個人所有の集合体)

ローン羊が特産 生産者がいなくなった

もう一度取り戻そうと上がった

牧草を守るにはこの羊しかいない やせた土地の草を食べてくれるのでやぶ化しない

地元の素材を加工して高品質高価格で自立を図る

農家は民宿、ジャム、加工品で生計を立てる(女性)

レストランで地元の料理が食べられる

赤字路線で廃止された路線を観光客のために再構築する必要が出てきた

バス1時間~2時間に一本

.....

## ランドスケープ・発展は予測できるか

デートリッヒ・ブルンズ(カッセル)

家を建てる時木を伐る 保護団体が反対する

誰かが代わりに植えないと死滅する

19世紀

りんごの木を植えた

1950年

食料源

1960年

農地のために伐採

1980年

ビオトープとして重要なことに気付き保存運動

将来の予測の為に

1 現状を知る

2 どんな方法があるか

3 みんなで考える

焼き畑農場に次第に芽がでて森ができるまで、どんなランドスケープを望むか?

石積み?本数?その他で将来鳥が住めるか。

将来のランドスケープがどうなるかワークショップする。

水、土、気候などの調査を十分に行ったが、それよりも農業を支配するものはマーケットであることに気付いた。

30年のジェネレーションで考えている

持続性で考えるともっと難しい。

エコロジーの人だけでなく、いろんな人たちと共同で行うことで、将来像をつくる。

地元の農家の意見

コンクリートで固められた川を再び昔の自然の川に戻した。しかし私達農家には何の話もなく進められてしまった。